

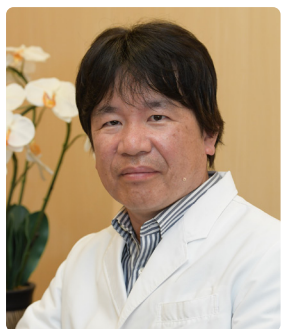


撮影：林喜代種

チェンバロ奏者

桑形 亜樹子

日本に戻ってから閉口しているのは街に音が溢れすぎている事です。商店街からカフェ、スーパー、どこへ行っても必ずBGMが、駅では到着、発車時に大音量で電子音が襲ってきます。全く音が無いのは図書館くらいではないでしょうか？しかし実際店員さんなどに聞いてみると、どこも規則で流しているだけで音(楽)を提供している意識が希薄です。音は人を癒し生かす力と同時にネガティブなパワーを持ってしまいます。我々音楽家は音をバランス良く組み合わせ、作曲や演奏を行い、人の心に届けるのがこの地上での役目です。その振動、波動が常に繊細で美しく、皮膚や耳から伝わって身体全ての細胞にポジティブに響くよう、日々努力しています。音符1つが1つの命を救う、くらいの覚悟を持って音楽を奏でたいものです。人間同士、果ては人間と宇宙のコミュニケーションツールとして想像をはるかに超えた働きを持つ音、音楽は生命の根元に深く関わるものです。サウンドヒーリング協会が、常に高い志と音への愛を持って活動なさっていることに敬意を表し、一層の協会のご発展をお祈り申し上げます。

心療内科しのだの森ホスピタル
理事長

信田 広晶

コロナ禍において新しい生活様式が叫ばれようになりかれこれ8か月は経つでしょうか。最初はソーシャルディスタンスと聞いてもピンとは来ず、私も一応医者なので感染対策上、人と人との距離をとるのは至極当然としか考えていませんでした。しかしコロナ禍が長引くにつれ、ソーシャルディスタンスという言葉は私の中である種の違和感を生んでいきました。コロナ前の世界では、人が密になるということを意識した人はあまりいなかったでしょう。なぜなら、人は群れを作る生き物だからです。古代ギリシャの時代、アリストテレスは「人間は社会的動物である」とその著書「政治学」の中で既に述べていたそうです。私は精神科医という職業柄、人の本性とか人と人との絆というものに強い関心をもってきました。私が信奉するホリスティック医療では、健康とはその人の身体と心とスピリットの調和した状態と定義しています。その中で医者がみるのは身体とせいぜい心の状態まででしょう。しかし私は人の実存の最奥にあるスピリットが調わなければ真の健康は得られないと考えています。WHOはスピリットを「人の本性と絆」と定義しており、スピリットはまさにその人がその人らしく生きていくための要なのです。コロナ禍において、人と人との距離をとり目と目を見て話さなくなれば、人の絆は失われ、そこに残るのは疑心暗鬼の世界です。人間は一人では生きられない生き物です。私はそんなコロナの時代だからこそ、その人のスピリットに響くサウンドヒーリングの力がもっと世の中に必要だと考えるのです。サウンドヒーリングで世界の人々の絆が戻ることを祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。20周年おめでとうございます。

サウンドヒーリング協会 20周年によせて

協会設立20周年、心からお祝い申し上げます。

まさに成人式の感がありますね。私も17年の欧州各地での滞在にピリオドを打ち、日本に戻って今年で丁度20年になるので、期せずしてこの協会とほぼ一緒に歩んで来たというわけです。

日本に戻ってから閉口しているのは街に音が溢れすぎている事です。商店街からカフェ、スーパー、どこへ行っても必ずBGMが、駅では到着、発車時に大音量で電子音が襲ってきます。全く音が無いのは図書館くらいではないでしょうか？しかし実際店員さんなどに聞いてみると、どこも規則で流しているだけで音(楽)を提供している意識が希薄です。音は人を癒し生かす力と同時にネガティブなパワーを持ってしまいます。我々音楽家は音をバランス良く組み合わせ、作曲や演奏を行い、人の心に届けるのがこの地上での役目です。その振動、波動が常に繊細で美しく、皮膚や耳から

伝わって身体全ての細胞にポジティブに響くよう、日々努力しています。音符1つが1つの命を救う、くらいの覚悟を持って音楽を奏でたいものです。人間同士、果ては人間と宇宙のコミュニケーションツールとして想像をはるかに超えた働きを持つ音、音楽は生命の根元に深く関わるものです。サウンドヒーリング協会が、常に高い志と音への愛を持って活動なさっていることに敬意を表し、一層の協会のご発展をお祈り申し上げます。

コロナ禍において忘れてはいけないもの ～人と人との絆が人を生かしていく

コロナ禍において新しい生活様式が叫ばれようになりかれこれ8か月は経つでしょうか。最初はソーシャルディスタンスと聞いてもピンとは来ず、私も一応医者なので感染対策上、人と人との距離をとるのは至極当然としか考えていませんでした。しかしコロナ禍が長引くにつれ、ソーシャルディスタンスという言葉は私の中である種の違和感を生んでいきました。コロナ前の世界では、人が密になるということを意識した人はあまりいなかったでしょう。なぜなら、人は群れを作る生き物だからです。古代ギリシャの時代、アリストテレスは「人間は社会的動物である」とその著書「政治学」の中で既に述べていたそうです。私は精神科医という職業柄、人の本性とか人と人との絆というものに強い関心をもってきました。私が信奉するホリスティック医療では、健康とはその人の身体と心とスピリットの調和した状態と定義しています。その中で医者がみるのは身体とせいぜい心の状態まででしょう。しかし私は人の実存の最奥にあるスピリットが調わなければ真の健康は得られないと考えています。WHOはスピリットを「人の本性と絆」と定義しており、スピリットはまさにその人がその人らしく生きていくための要なのです。コロナ禍において、人と人との距離をとり目と目を見て話さなくなれば、人の絆は失われ、そこに残るのは疑心暗鬼の世界です。人間は一人では生きられない生き物です。私はそんなコロナの時代だからこそ、その人のスピリットに響くサウンドヒーリングの力がもっと世の中に必要だと考えるのです。サウンドヒーリングで世界の人々の絆が戻ることを祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。20周年おめでとうございます。

東洋メディアリンクス(株)
元代表取締役会長

下雅意 巖

パワーの持ち主だと感じていたものです。

設立当時の協会で研究者や臨床医のトークがとても新鮮で凄く刺激になったことを記憶しています。また、宮下富美夫さんとの出会いは私の貴重な財産であり、彼の作曲した「音楽」は「生活の中の友」として現在も私の「癒し」のパートナーです。

高齢者多数とされるわが国にとって、治療よりも予防の大切さを理解し心身の癒しを通して自己免疫力を高めることが重要かと思っています。新型コロナ禍にある現在、ワクチンや治療薬だけに頼らない人間本来の力を備えることで「ウイズコロナ」時代を乗り切れると確信しています。2020年の米国大統領選でも人々への「心の癒し」が話題になりました。コロナ後の社会ではサウンドヒーリング協会の役割、存在が従前にもまして大きくなることでしょう。将来に向けて人々に望まれ、求め続けられる協会でありますことを期待します。協会創立20周年、真におめでとうございます。

サウンドヒーリング協会 20周年に寄せて

今を遡ること60有余年、わが国初のBGM事業会社の揺籃期に将来への期待から身を置くことになった頃を懐かしく思い出します。後年、喜田圭一郎さんが当該会社に加わったことがご縁で後に喜田さんが設立したサウンドヒーリング協会の理事をお引き受けすることになりました。環境音楽(音)を扱う中で、心身の調和をもたらす「音楽(音)」を通して「癒し」への関心が高まったことは喜田さんにとっては必然であったように思えます。少年時代の体験を原点とし、人々への優しさを表現する手段として純粋な使命感から立ち上がったのだと思います。その後は啓蒙活動、サウンド制作、人材育成など地道な活動を続けられ、いくつかの困難を超えて今日を迎えられたその熱意と手腕に敬意を表します。

一時期、体調不良を感じていた私に呼吸法や自己治療力等を説きながら幾度となく「癒し」の後押しをして頂いたことから彼こそ天性の「癒し」

ストレスケア研究会代表
医学博士

松下 裕子

健康でいる事は、人生で最も大切な幸せです。昨年末中国武漢から感染が広がった新型コロナ・ウイルスはパンデミック(世界的大流行)となって人類の健康を脅かしている今日では、感染予防のために対人接触を避ける日常生活を求められています。しかし、サウンドヒーリングは施術者がクッションを通じて対象に「接触する・ふれる」施術です。クッションからの触覚を通じて相手の体と共鳴が起こるという、相手の体感覚・呼吸を感じる相互作用により、両者の関係の仕方を新しく作り出します。なお、本施術は、開始当初より個人を対象として、Social Distanceのある、ゆとり空間で実施されています。今後は、従来以上に嗽(「アルペnungがい」使用)、手洗いをし、栄養や休養を取って自己の免疫力を高め感染予防対策を実施の上、コロナストレス軽減のためにも、施術を継続され、益々の御隆盛を祈ります。

祝 サウンドヒーリング協会 設立20周年記念誌

サウンドヒーリング協会設立20周年のお祝いを申し上げます。喜田理事長とは2001年協会設立年の12月にお目に掛りました。私は1999年よりストレスホルモンと言われる唾液中コルチゾール(S-Cor.)値を中心に、様々な療法が心身に与える有効性を客観的に評価していました。Healing Vibrationのストレス軽減効果の実証的評価を2002年より行い、「音楽」の振動波動と音楽性に魅せられて様々な対象への健康教育に取り入れています。

健康でいる事は、人生で最も大切な幸せです。昨年末中国武漢から感染が広がった新型コロナ・ウイルスはパンデミック(世界的大流行)となって人類の健康を脅かしている今日では、感染予防のために対人接触を避ける日常生活を求められています。しかし、サウンドヒーリングは施術者がクッションを通じて対象に「接触する・ふれる」施術です。クッションからの触覚を通じて相手の体と共鳴が起こるという、相手の体感覚・呼吸を感じる相互作用により、両者の関係の仕方を新しく作り出します。なお、本施術は、開始当初より個人を対象として、Social Distanceのある、ゆとり空間で実施されています。今後は、従来以上に嗽(「アルペnungがい」使用)、手洗いをし、栄養や休養を取って自己の免疫力を高め感染予防対策を実施の上、コロナストレス軽減のためにも、施術を継続され、益々の御隆盛を祈ります。

参考までに、望まれる感染予防対策を以下に記します。

[1. 利用時の実施条件] *マスクの着用(施術者は「フェイスマスク」着用が理想)。*手指の「アルコール」消毒(入退出時) *①37.5℃以上の発熱、②咳、喉の痛み、③だるさ、④呼吸苦、⑤味覚・嗅覚異常 について予約時と入室時に「ない事チェック」を行う。

[2. 室内空間対策] *活動時間は2時間以下とし入れ替え時の、出入り口、廊下の密集を避ける。*窓を開ける。あるいは定期的に換気(10分/1時間、5分/30分、1回程度以上実施)。*冷暖房使用時は、ドアを10cm以上、風の通り道の対角線上の窓を10cm程度常時開く。*人と人との距離を1.5m以上とる。*消毒薬クレベリゲル(大幸薬品、芳香剤のように室内に置いて使用)による空間除菌。

[3. 対象者毎利用後の処置] *ドアノブ、電灯スイッチ、ベッド、クッション、Healing Vibrationの除菌拭き取り。リネン類は「使い捨て」か、1施術毎に取り換える。*トイレ、洗面所には、「薬用泡ハンドソープ」の設置、器物の1施術毎除菌拭き取り。…等、こんな事があつたと20年後には笑い話になるでしょう。